



赤い羽根共同募金

介護福祉士実習指導者実態調査 報告書

2018年3月1日

この報告書は赤い羽根共同募金の助成金を受けて作成しています。

**BLUEMOON
PARTNERS**

ブルームーンパートナーズ 株式会社

目 次

調査概要	2
対象者の属性	3
〔Ⅰ〕結果のまとめ	5
〔Ⅱ〕主要な調査結果	9
1 在籍している実習指導者	10
2 実習生の受入れ	13
3 介護過程の指導	21
4 養成施設・専門学校との連携	24
5 実習指導者のスキルアップ	27
6 実習生の評価	33

調査概要

- 1 調査の目的 : 平成20年度より、県内において継続的に実施してきた介護福祉士実習指導者講習会で養成してきた300名余りの実習指導者に対して、その後の指導実態と養成の効果を明らかにすると同時に、将来の実習指導者の質を担保し、効果的な養成の道筋をつけてゆくための基礎資料を得ることを目的とする。
- 2 調査の方法 : インターネット調査

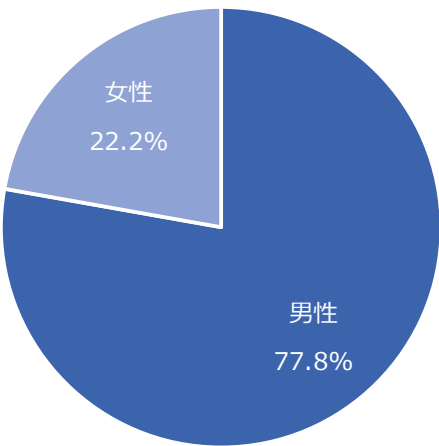
実習指導者が所属する介護施設または個人のインターネットアドレスから、調査システムの回答画面へアクセスしてもらい、質問に回答してもらう。
調査画面へアクセスしても、個人情報に残らず、回答結果のみが〇〇%というようなデータという形で残る。

長所：データおよび調査のシステムには個人情報が残らないこと／調査時間が早く、データの入力と集計が早いこと

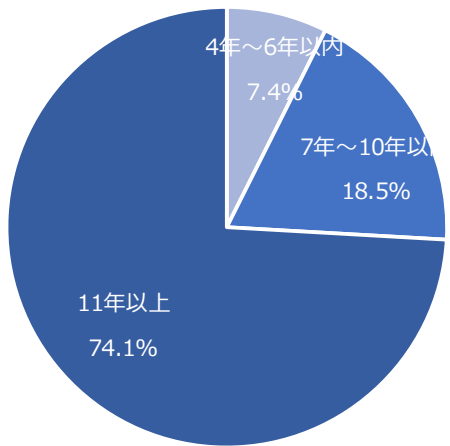
質問数：30問以内
- 3 調査地域 : 沖縄県内
- 4 調査の対象者 : 平成20年度から実施してきた介護福祉士実習指導者講習会で養成した実習指導者
- 5 対象者条件 : 平成20年以降の講習で養成された実習指導者 300サンプル
- 6 回収サンプル数 : 27サンプル
- 7 調査期間 : 2017年12月20日～2018年1月21日

1-1 対象者の属性

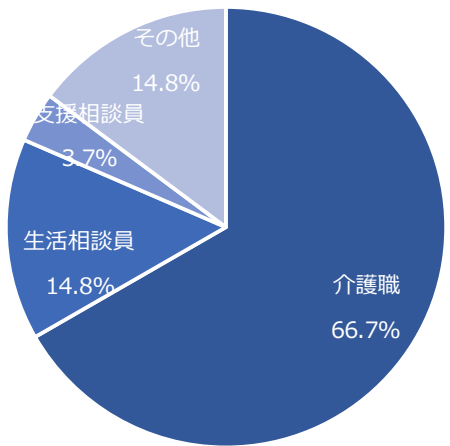
性別 (n=27)



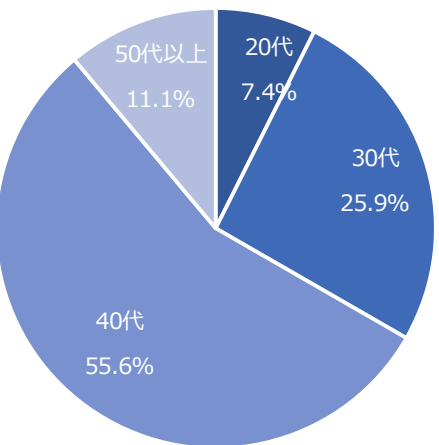
介護職経験年数 (n=27)



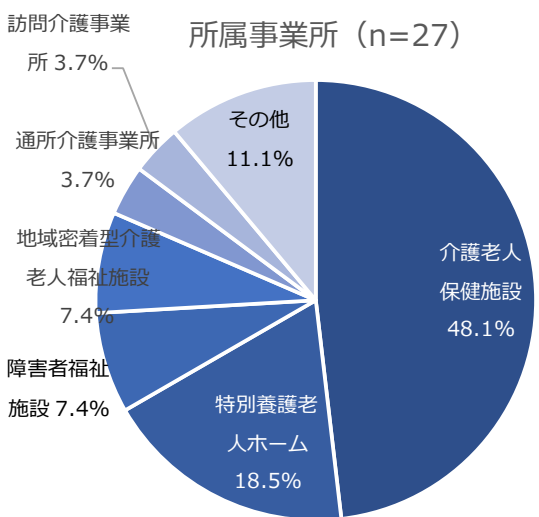
職種 (n=27)



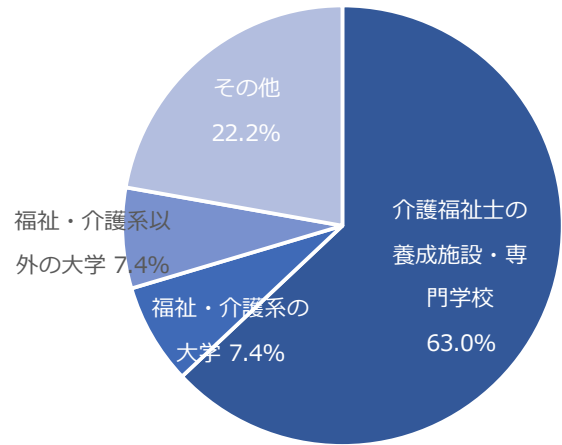
年代別 (n=27)



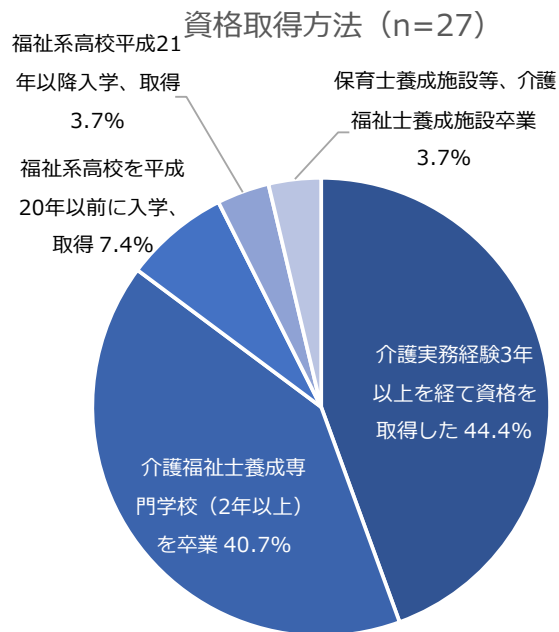
所属事業所 (n=27)



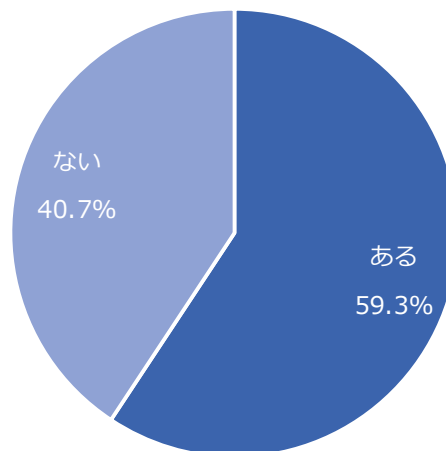
最終学歴 (n=27)



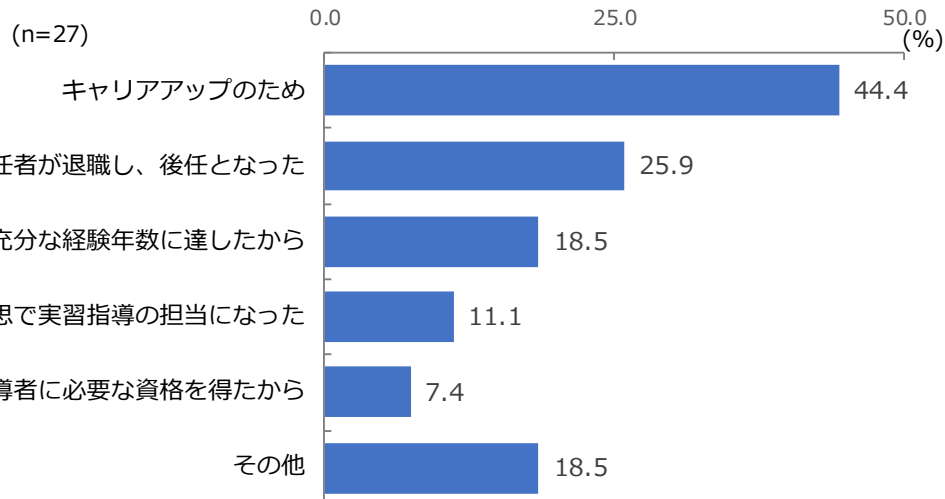
1-2 対象者の属性



自分自身の実習経験 (n=27)



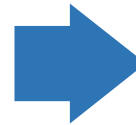
実習指導者になった経緯・理由



〔 I 〕 結果のまとめ

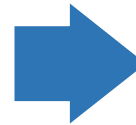
現在の施設・事業所で
実習指導を担当しているのは37.0%
以前は担当していた人は22.2%

現在の事業所で担当していないのは40.7%



これまでに介護実習指導者の講習を受けた人のうち、
現在、実習担当をしているのは37.0%だけである。

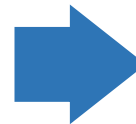
実習受け入れの
実習委員会を設置しているのは25.0%
マニュアルがあるのは75.0%
「実習生ごとに計画を作成している」は半数
「同じ実習プログラムがある」は25.0%



実習生受け入れの委員会の設置は少ないが、マニュアル
は保有している。
実習生ごとの実習計画の作成は半数。

上記から実習受け入れの実態は、過去の計画に当てはめ
て、実習を行っているといえそう。

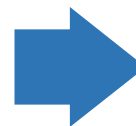
実習指導をするのは
「実習チームの担当職員」が56.2%
「実習指導者が専属で」が43.8%である
実習日誌のコメント記入者は
「実習指導者」が75.0%
実習生受け入れ数の上限は4人が31.2%。



実習生受け入れを行い、実習を行っているのは、実質実
習指導者1人ではないか。
実習受け入れ数の上限は、1人の実習指導者が担当でき
る限度と考えられる。

「介護過程」について
指導は「介護計画の評価・修正まで」が62.4%
指導時間は「1時間~2時間未満」が56.2%

指導で困っていることは「情報収集とアセスメントの
取り方」が43.8%、「介護過程の意義や目的、目標に
ついての説明」「介護計画の立案方法」がそれぞれ
31.3%



指導の到達目標「介護計画の評価・修正まで」としな
がら、指導時間は2時間未満となっている。
指導で困っていることが、その意義や目的、目標の説
明や計画の立案方法が上げられている。

建前と本音が表れていると考えられる。

介護福祉士の養成施設・専門学校との連携
87.5%が連携取れている

学校の教員の必ず参加は

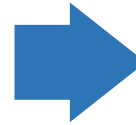
実習巡回 68.8%

終了時の反省会 93.8%

学校に対する要望点

「実習目的の明確な指導」 56.3%

「挨拶、言葉遣いの指導の徹底」 43.8%



学校との連携は取れている
学校教員の多くは巡回や反省会に参加しているとみられる。

要望点は実習目的の明確化や挨拶など初歩的なものが
高く、学校との連携が取れている際に解決可能なもの
と考えられる。

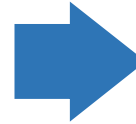
「介護福祉士実習指導者講習会」修了者
回答者以外に3人が31.2%、6人以上が25.0%

実習指導の勉強会を

「毎年している」 6.3%

「これまでに勉強会を行ったことがある」 56.2%

「まったくしていない」 37.5%



講習会の修了者数は回答者以外にもいるものの、
多くの事業所では実習指導をやりっぱなしにしている
とも考えられる。

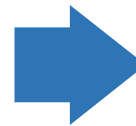
実習指導者に必要なスキルアップ「とても必要」

研修を受ける機会 74.1%。

実習チーム内の話し合い 59.3%

上司などとの話し合い 59.3%

スキルアップに必要なものとしては、組織内の話し合
いよりも実習指導者講習の受講機会のほうが高いと考
えられる。



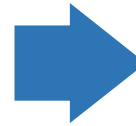
スキルアップに必要なものとしては、組織内の話し合
いよりも実習指導者講習の受講機会のほうが高いと考
えられる。

実習生の評価

- 「利用者に寄り添う態度が見られる」 62.5%
- 「相手の話を聞く姿勢ができています」 56.3%
- 「学びたいという意欲」 37.5%
- 「実習生同士でも協力的」 37.5%

実習生を受け入れる評価

- 「利用者にもよい影響がある」 81.3%
- 「実習生がいることで活気が出る」 68.8%。
- 「介護実習の指示があるまで待っていること」 50.0%



実習生の評価として、利用者に寄り添う態度や相手の話を聞く姿勢が高い。
また、利用者にもよい影響や実習生がいることで活気が出るは、事業所にいい風を吹かせているという点で実習指導者の評価は高い。

指示があるまで待っているは、指示をしなくても進めて欲しいことの現れと思われるが、指示以外のことをやっていいという判断は本来は指導者に求められると考えられる。

〔Ⅱ〕 主要な調査結果

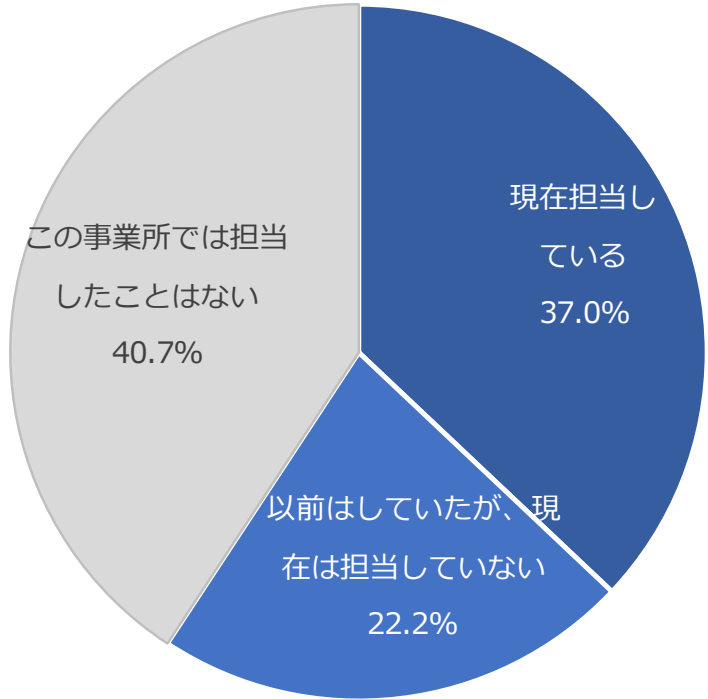
1-1 現在の事業所での実習指導担当の有無

- 現在の施設・事業所で実習指導を担当しているのは37.0%。以前は担当していた人は22.2%である。
- この施設・事業所で担当していないのは40.7%。

Q1 現在の施設・事業所で、実習指導を担当していますか。(1つ選択)

全対象者ベース

(n=27)



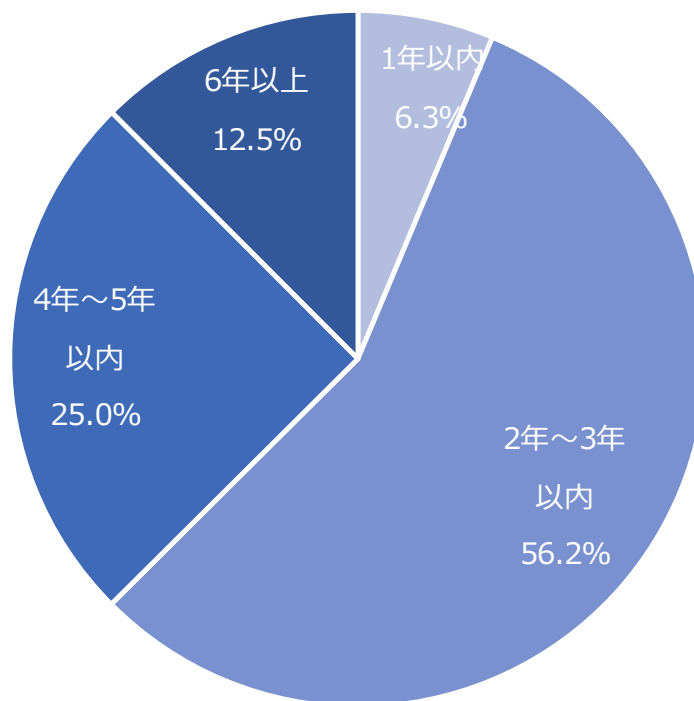
1-2 実習指導を担当した通算期間

- 現在の施設・事業所で実習指導担当をしている10人と、今はしていない6人の合計16人に対して実習指導について尋ねている。
- 以前勤めていた施設・事業所も含めて実習指導の担当期間は「2年～3年以内」が56.2%と過半数。平均すると約3.3年である。

Q2 以前に勤めていた施設・事業所も含めて、通算でどのくらいの期間、実習指導の担当をしてきましたか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

(n=16)

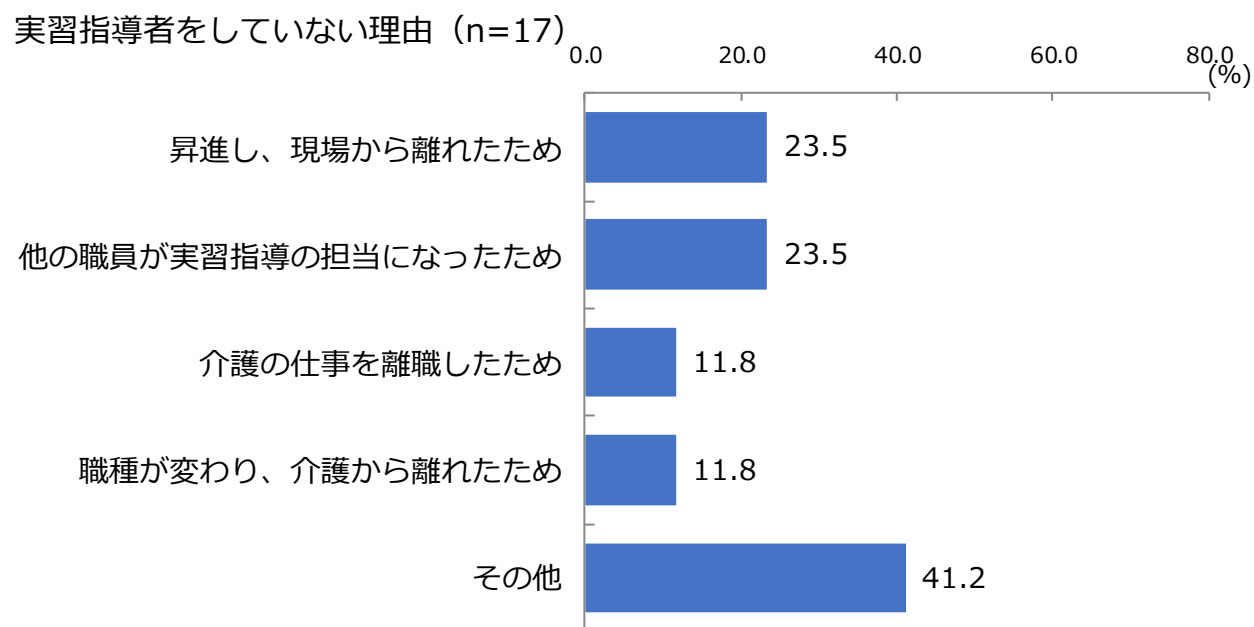


1-3 実習指導者をしていない理由

- 現在、実習指導者をしていないのは、「昇進し、現場から離れたため」「他の職員が実習指導の担当になったため」がそれぞれ23.5%となっている。

Q26 現在、実習指導者をしていないのは、どのような理由からですか。(複数選択可)

現在事業所での非担当者ベース



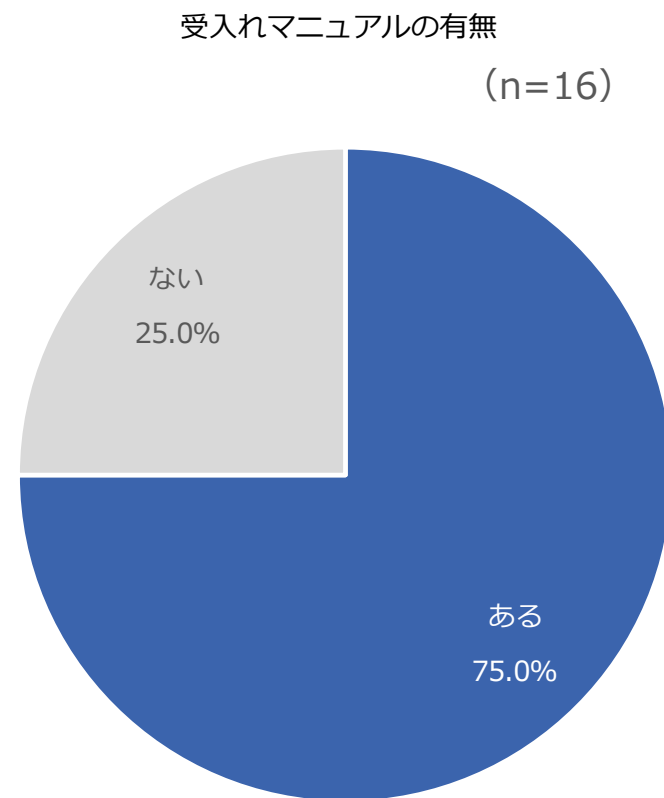
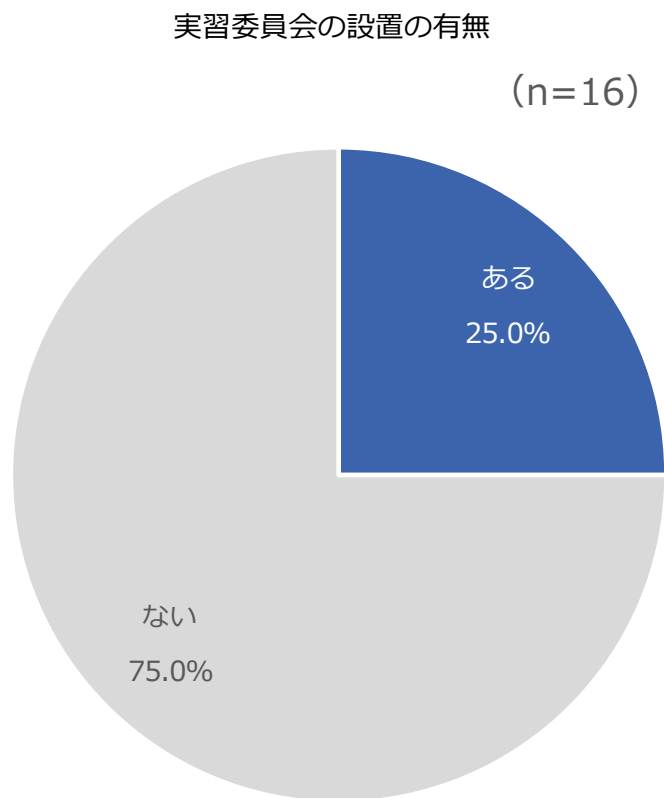
2-1 実習生受け入れのための委員会、マニュアル

- 実習受け入れのための実習委員会を設置しているのは25.0%。
- 実習受け入れのためのマニュアルがあるのは75.0%である。

Q3 施設・事業所には、介護福祉士の実習受け入れのための実習委員会はありますか。(1つ選択)

Q4 施設・事業所には、実習受け入れのためのマニュアルはありますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース



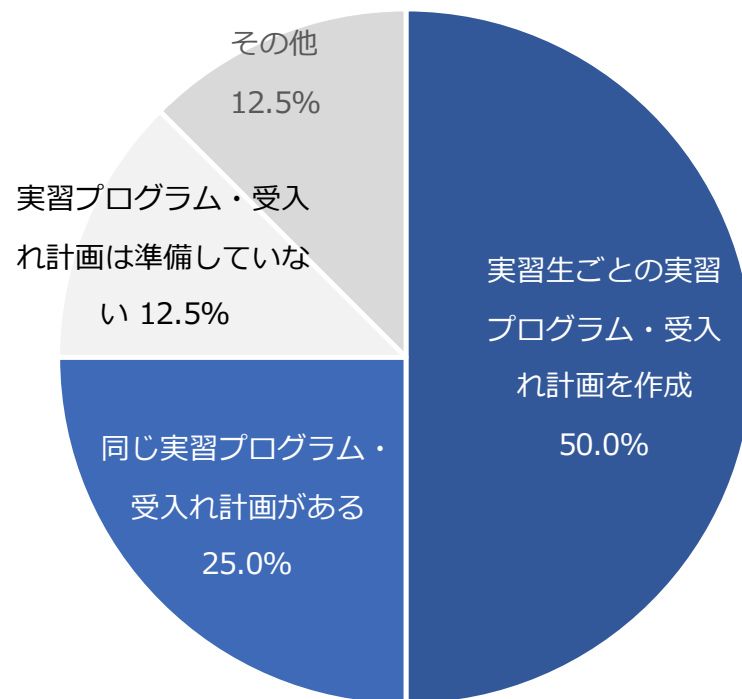
2-2 実習生の受け入れ計画の作成有無

- 実習生の受け入れプログラムについて、「実習生ごとに計画を作成している」は50.0%と半数。
- 「同じ実習プログラムがある」は25.0%である。

Q5 実習生に対して、実習プログラム・実習受け入れ計画を作成していますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

(n=16)



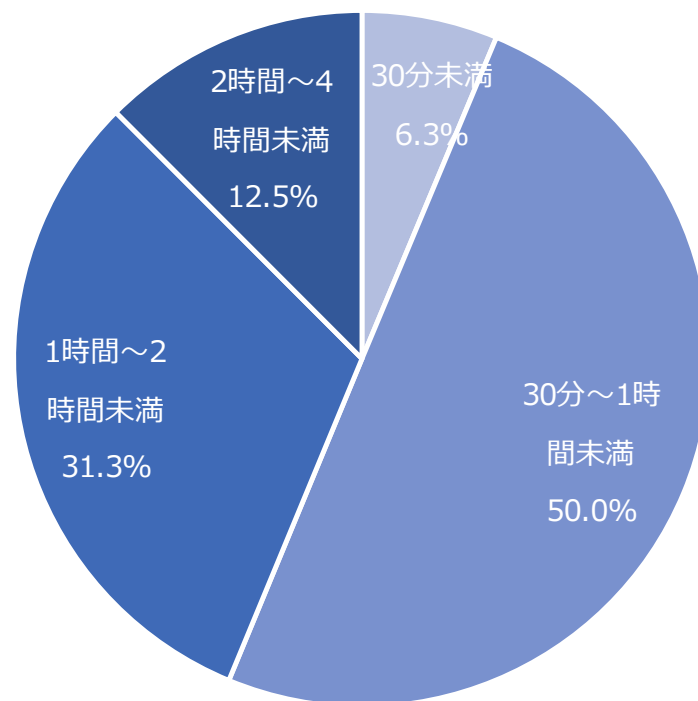
2-3 実習生受入れの事前オリエンテーションにかかる時間

- 事前のオリエンテーションにかけている時間は「30分～1時間未満」が50.0%。「1時間～2時間未満」が31.3%である。

Q6 実習生受け入れの事前オリエンテーションの時間を合計でどれぐらい行っていますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

(n=16)



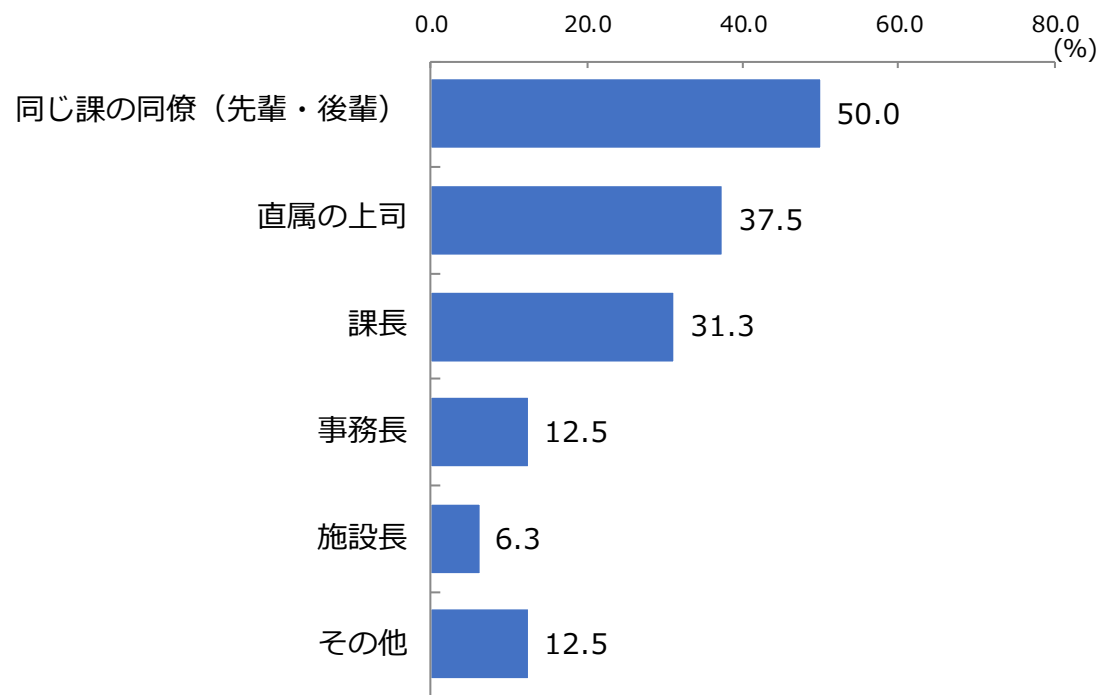
2-4 実習生受入れ会議への参加職員

- 実習生受け入れの打ち合わせ会議に参加している職員のうち「同じ課の同僚（先輩・後輩）」が50.0%、「直属の上司」が37.5%、「課長」が31.3%である。

Q17 実習受け入れの打ち合わせ会議に施設・事業所の職員関係者で参加しているのは次のどなたですか。（複数選択可）

現在事業所での担当者ベース

打ち合わせ会議に参加している職員（n=16）



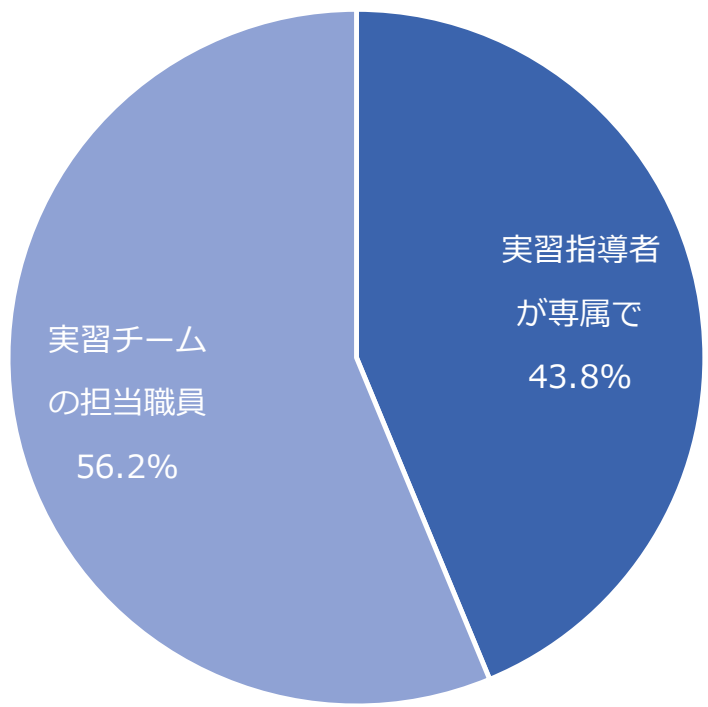
2-5 実習期間中に実習指導をする人

■ 実際の実習指導をするのは、「実習チームの担当職員」が56.2%、「実習指導者が専属で」が43.8%である。

Q7 実習期間中、どなたが実習指導していますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

(n=16)

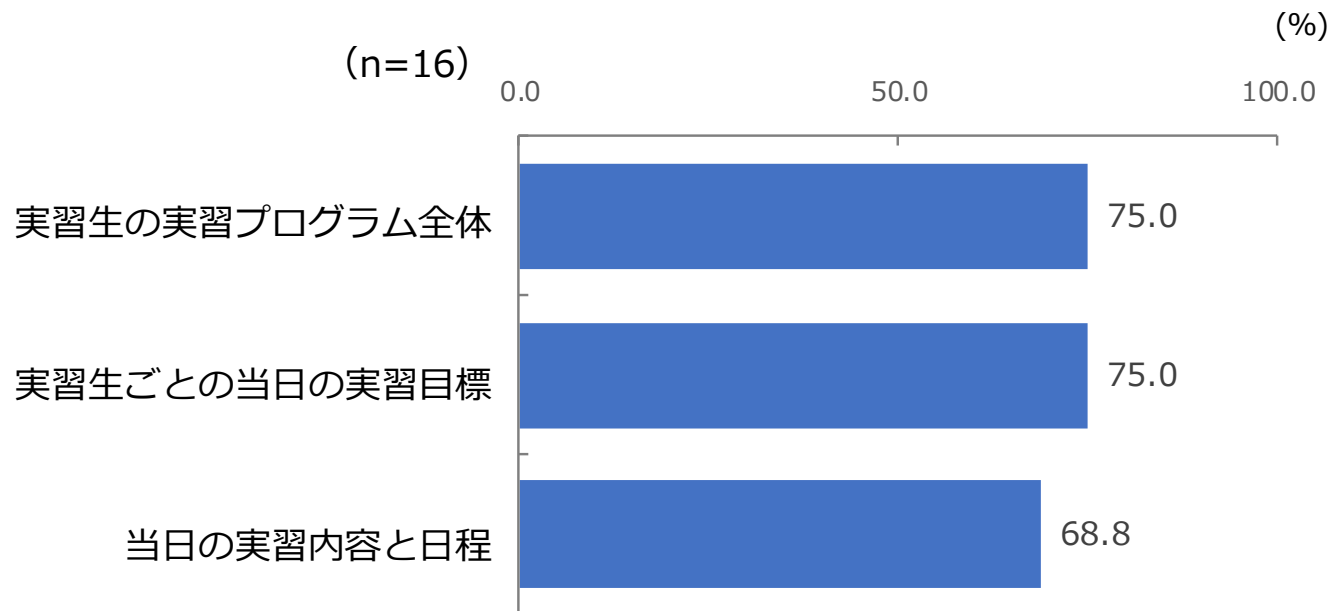


2-6 実習生の実習段階、目標などの現場への情報周知内容

- 実習生の実習段階や実習目標など、現場の職員に周知されているのは、「実習生の実習プログラム全体」が75.0%、「実習生ごとの当日の実習目標」が75.0%、「当日の実習内容と日程」が68.8%。

Q8 実習生の実習段階・実習目標などで、現場の職員に知らせている情報はどれですか。(複数選択可)

現在事業所での担当者ベース

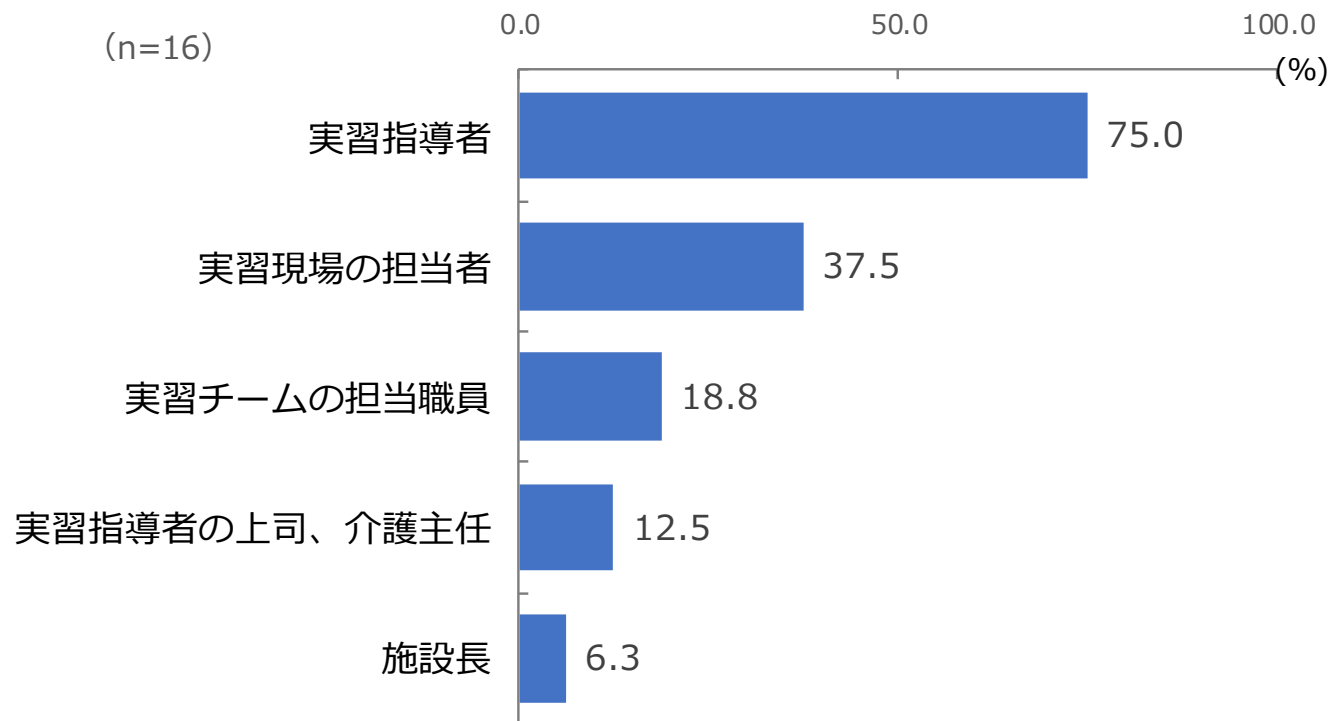


2-7 実習生の日誌のコメント記入者

- 実習生の実習日誌のコメント記入者は「実習指導者」が75.0%と最も高い。次いで「実習現場の担当者」の37.5%が高い。

Q9 実習生の実習日誌のコメントの記入者はどなたですか。(複数選択可)

現在事業所での担当者ベース

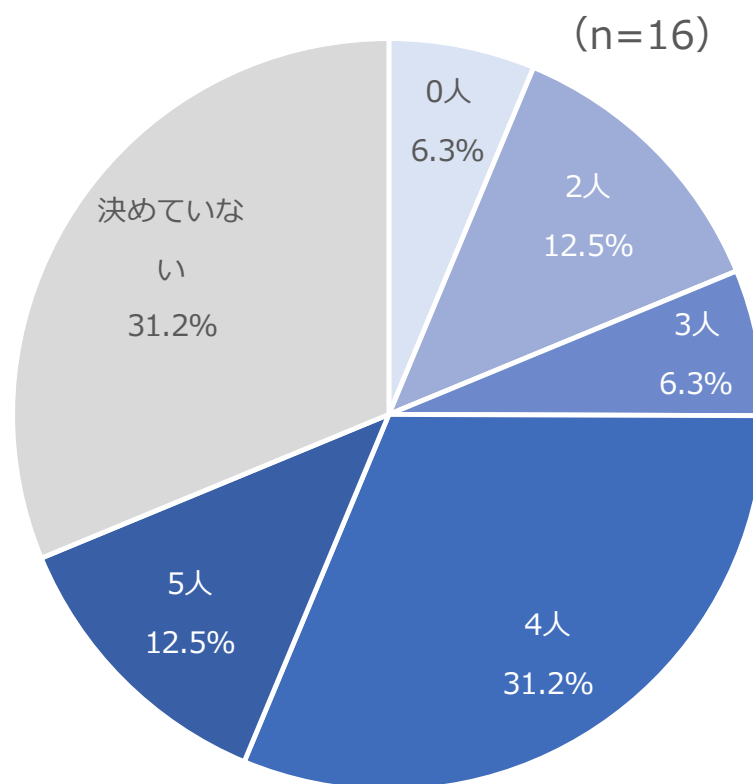


2-8 現在の事業所での実習生受入れ上限

- 施設・事業所での実習生受け入れ数の上限は4人が31.2%。5人と2人がそれぞれ12.5%である。一方、決めていない事業所も31.2%ある。

Q10 施設・事業所では、1日あたりの実習生を受け入れる上限人数は何人ですか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

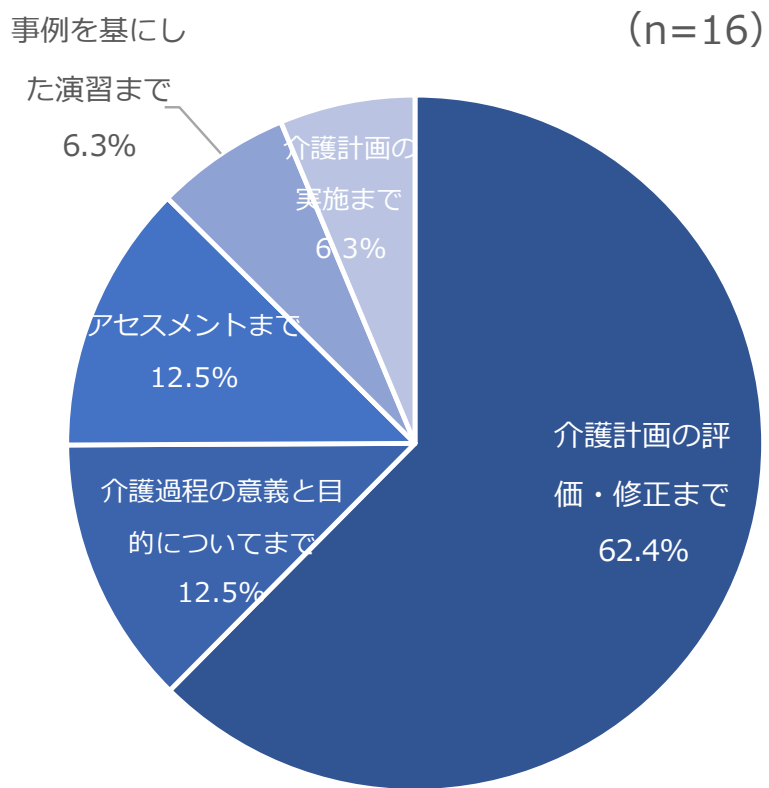


3-1 「介護過程」の到達目標

- 「介護過程」の指導は「介護計画の評価・修正まで」が62.4%過半を占める。

Q11 介護実習において「介護過程」の指導はどこまで実習生が到達することを目標としていますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース



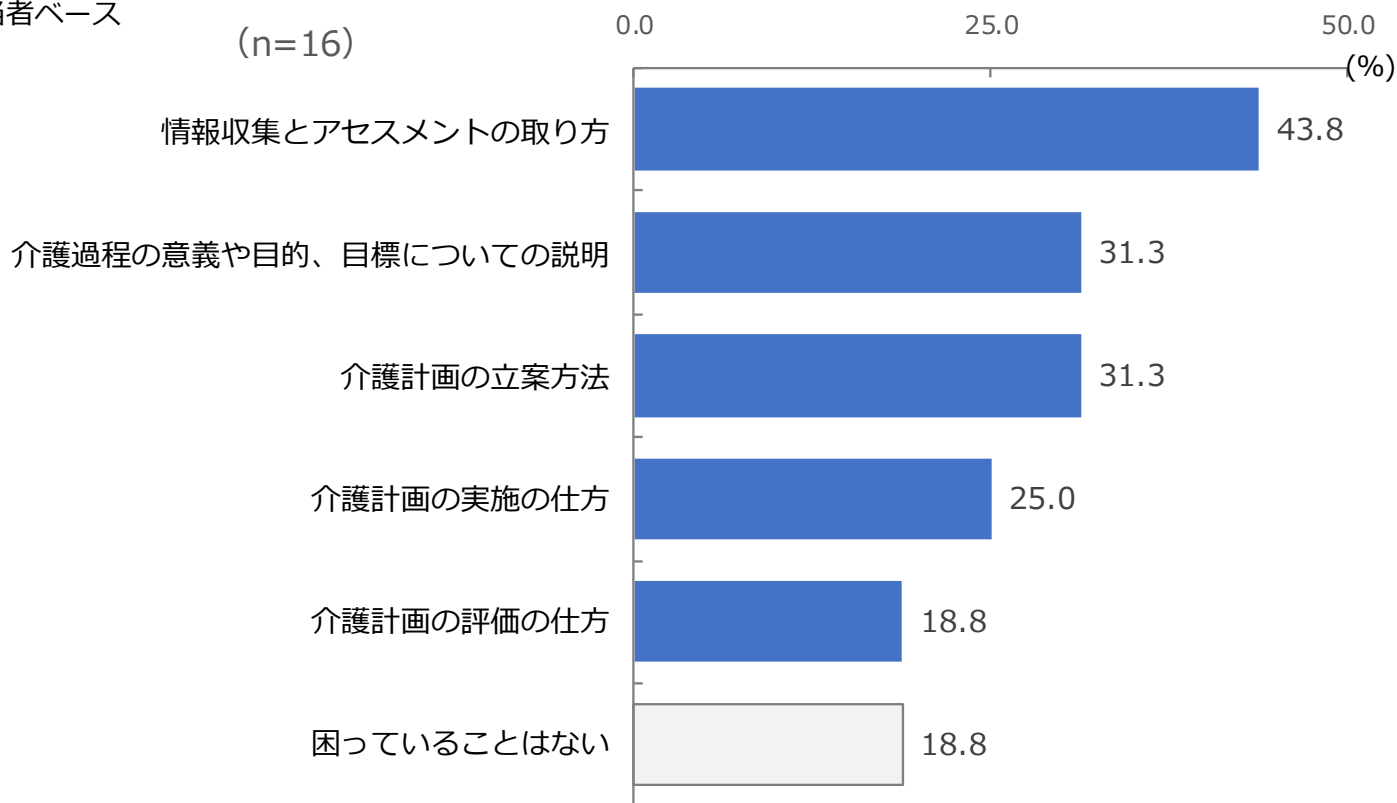
3-2 「介護過程」指導上の困難点

- 「介護過程」の指導で困っていることは「情報収集とアセスメントの取り方」が43.8%、「介護過程の意義や目的、目標についての説明」「介護計画の立案方法」がそれぞれ31.3%である。
- 「困っていることはない」も18.8%ある。

Q12 「介護過程」の指導について困っていることは、どのようなことですか。(複数選択可)

現在事業所での担当者ベース

(n=16)

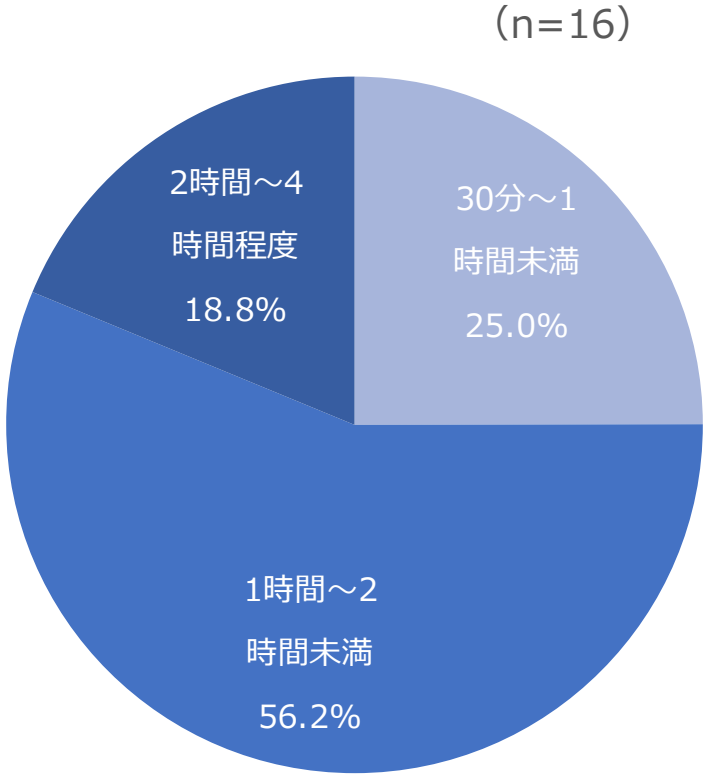


3-3 「介護過程」指導時間

- 介護過程に割いている指導時間は「1時間～2時間未満」が56.2%と過半数。「30分～1時間未満」が25.0%である。

Q13 「介護過程」の指導に割いている時間はどのくらいですか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

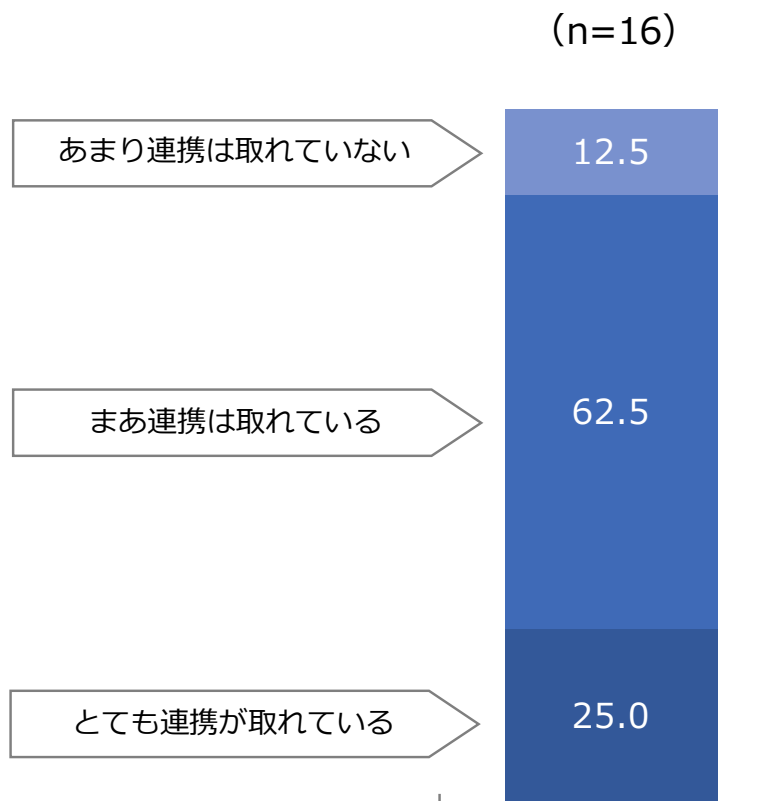


4-1 養成施設・専門学校との連携程度

- 介護福祉士の養成施設・専門学校との連携は「とても取れている」が25.0%、「まあ取れている」が62.5%で取れている合計は87.5%となる。

Q15 実習受け入れに関して、介護福祉士の養成施設・専門学校との連携はどの程度取れていますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

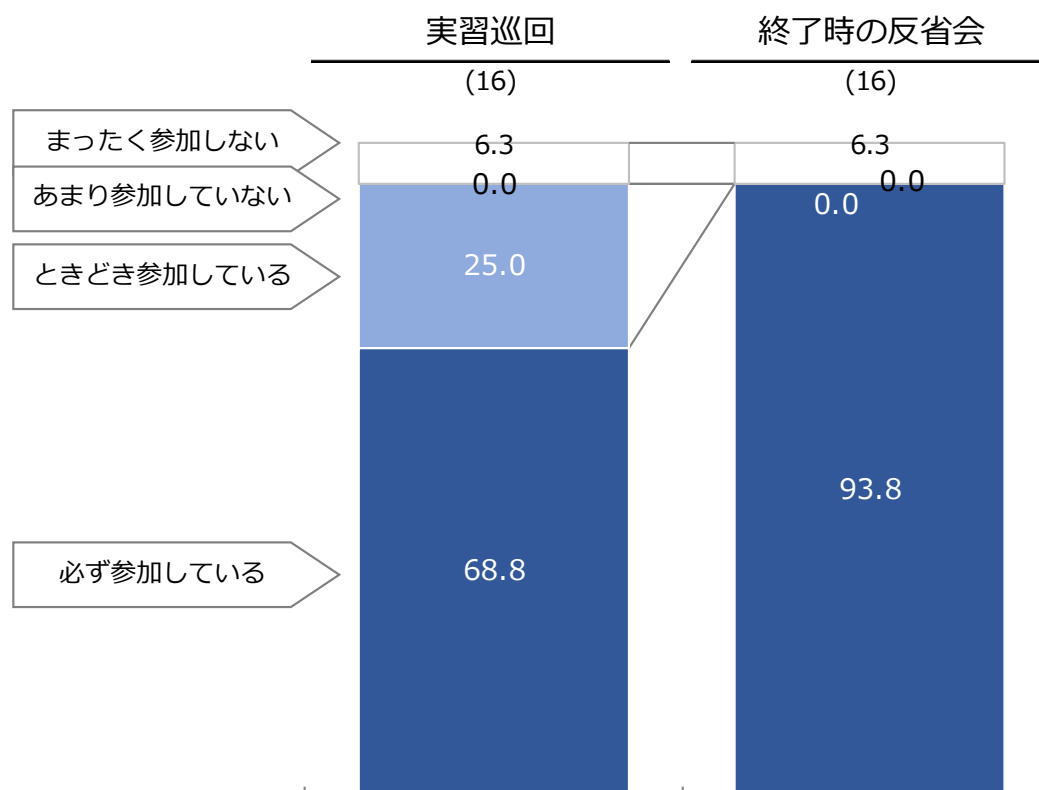


4-2 養成施設・専門学校教員の参加状況

- 実習期間中の養成施設・専門学校の教員の参加は、実習巡回で「必ず参加」が68.8%、「終了時の反省会」で93.8%である。学校教員の多くは巡回や反省会に参加しているとみられる。

Q16 実習期間中の実習巡回や終了時の反省会に養成施設・専門学校の教員はどの程度参加していますか。(それぞれ1つずつ選択)

現在事業所での担当者ベース

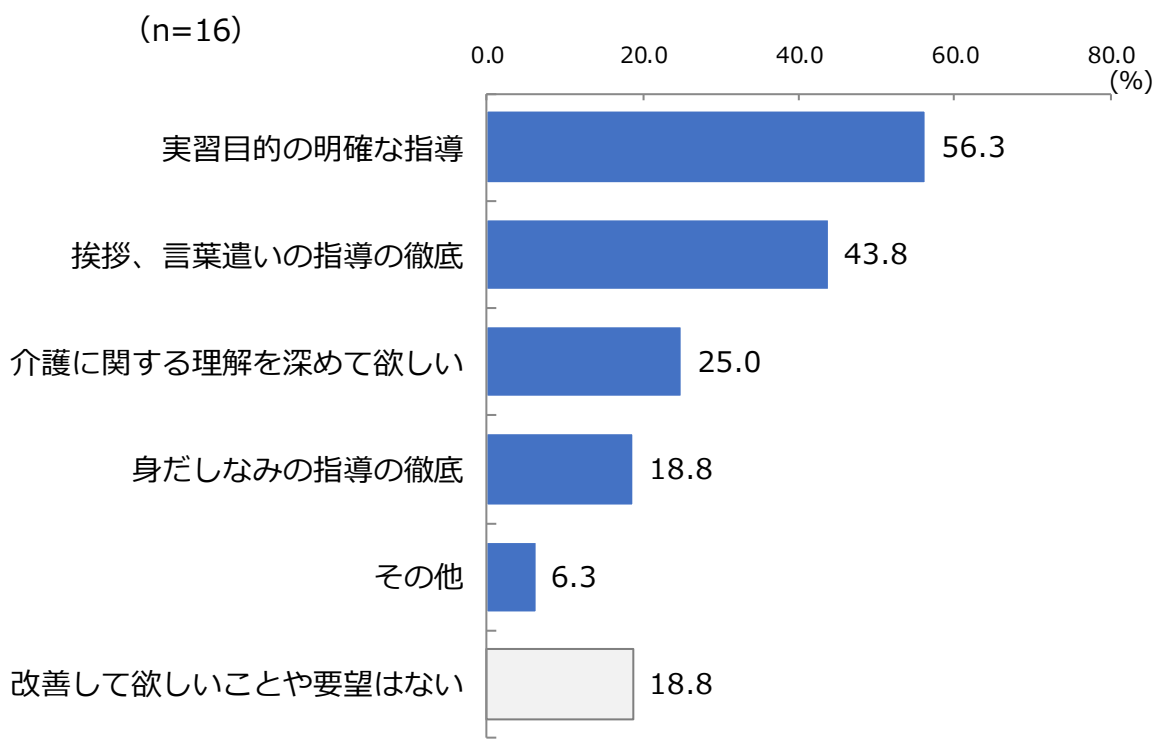


4-3 養成施設・専門学校に対する改善要望点

- 養成施設・専門学校に対する改善して欲しい要望点として、「実習目的の明確な指導」が56.3%、「挨拶、言葉遣いの指導の徹底」43.8%が高い。

Q18 介護福祉士の養成施設・専門学校に対して、改善して欲しいことや要望がありますか。(複数選択可)

現在事業所での担当者ベース

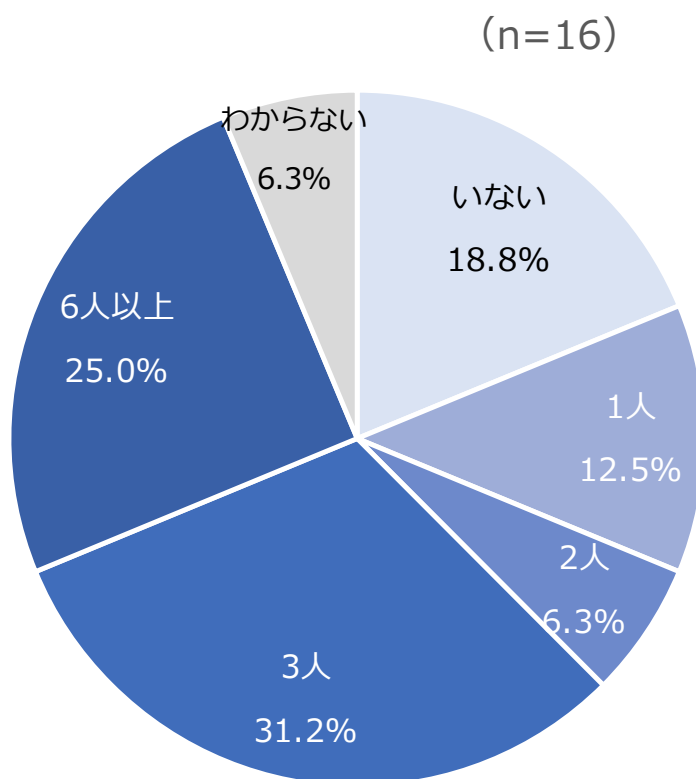


5-1 介護福祉士実習指導者講習会の受講修了者数

- 現在の施設・事業所で「介護福祉士実習指導者講習会」を受講し修了した職員の数、回答者以外に3人が31.2%、6人以上が25.0%である。回答者以外に「いない」という事業所が18.8%ある。

Q14 施設・事業所には介護福祉士実習指導者講習会を受講・修了された職員はあなた以外に何人いますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

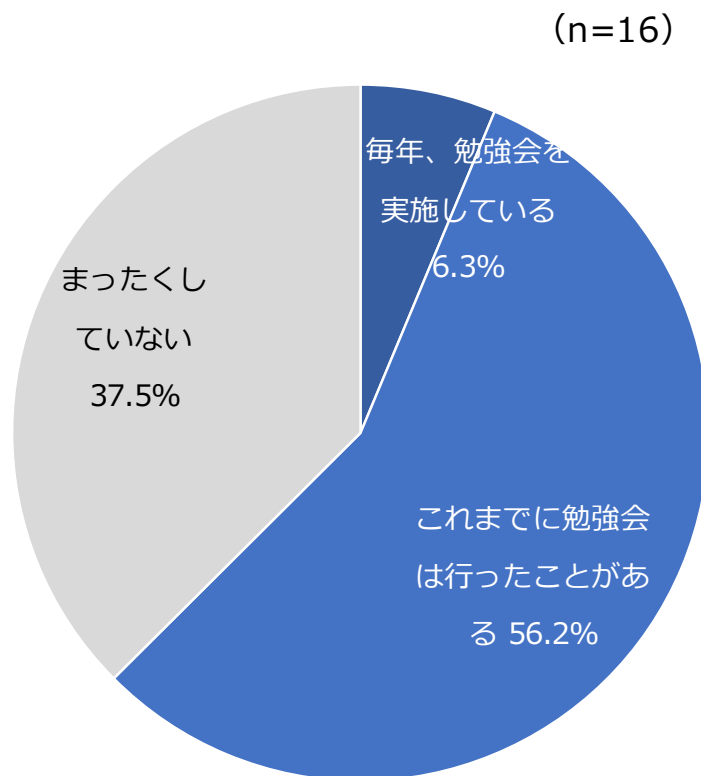


5-2 事業所内職員に対する勉強会の有無

- 事業所内で職員を対象として実習指導の勉強会を「毎年している」は6.3%である。「これまでに勉強会を行ったことがある」は56.2%である。
- 「まったくしていない」という回答も37.5%あり、3分の1の事業所は実習指導をやりっぱなしにしているとも考えられる。

Q19 施設・事業所の職員を対象にした実習指導についての勉強会や指導方法の確認などを行っていますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

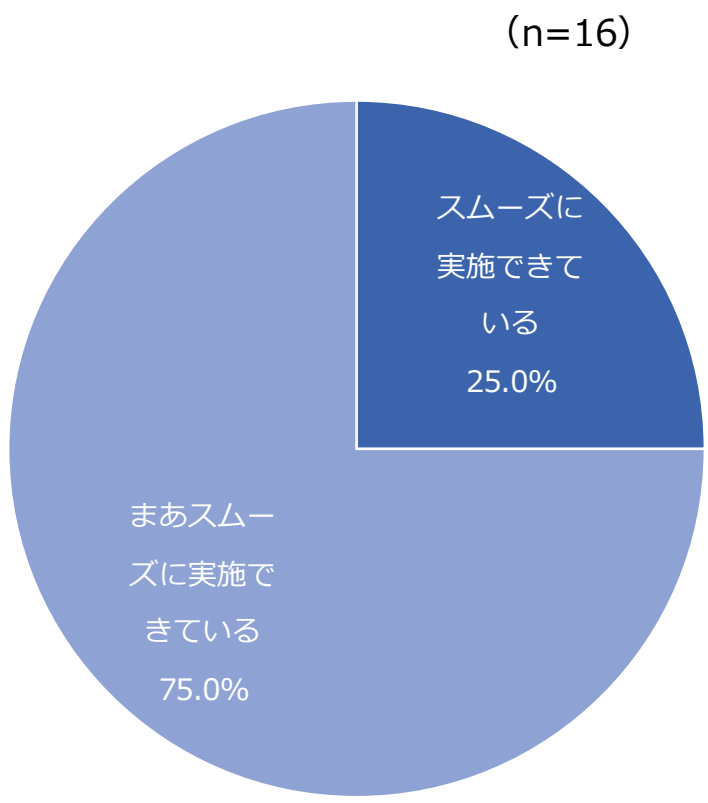


5-3 実習受け入れから終了までの運営状況

- 実習受け入れから終了まで、「まあスムーズに実施できている」が75.0%である。ところどころスムーズではないのかもしれない。

Q20 実習受け入れから実習開始・終了まで、施設・事業所でスムーズに実施できていますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

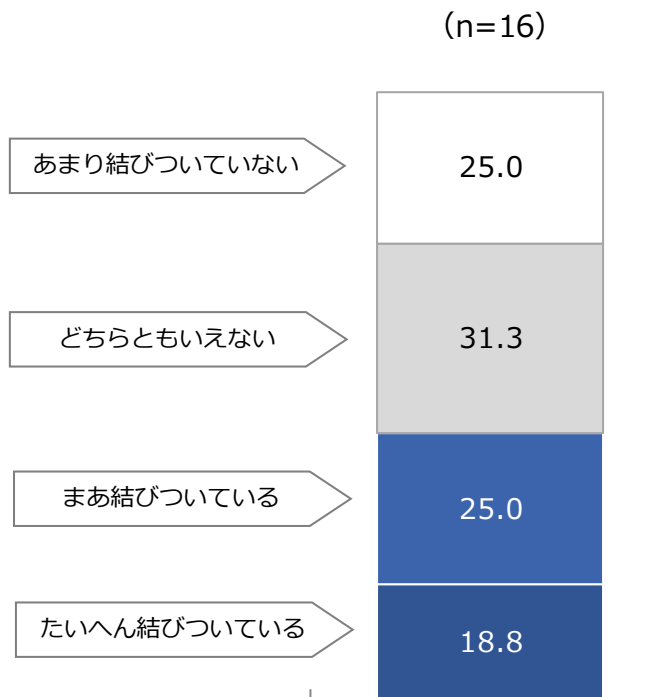


5-4 実習生受入れと職員採用の関係

- 実習生の受入れが職員採用に「たいへん結びついている」は18.8%。「まあ結びついている」という合計は43.8%で、半数に満たない。
- 実習を積極的に受け入れる姿勢がないのか、それとも実習生に評価されないのかの分析が必要となる。

Q24 実習生の受け入れは施設・事業所の介護職の採用に結びついていると思いますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

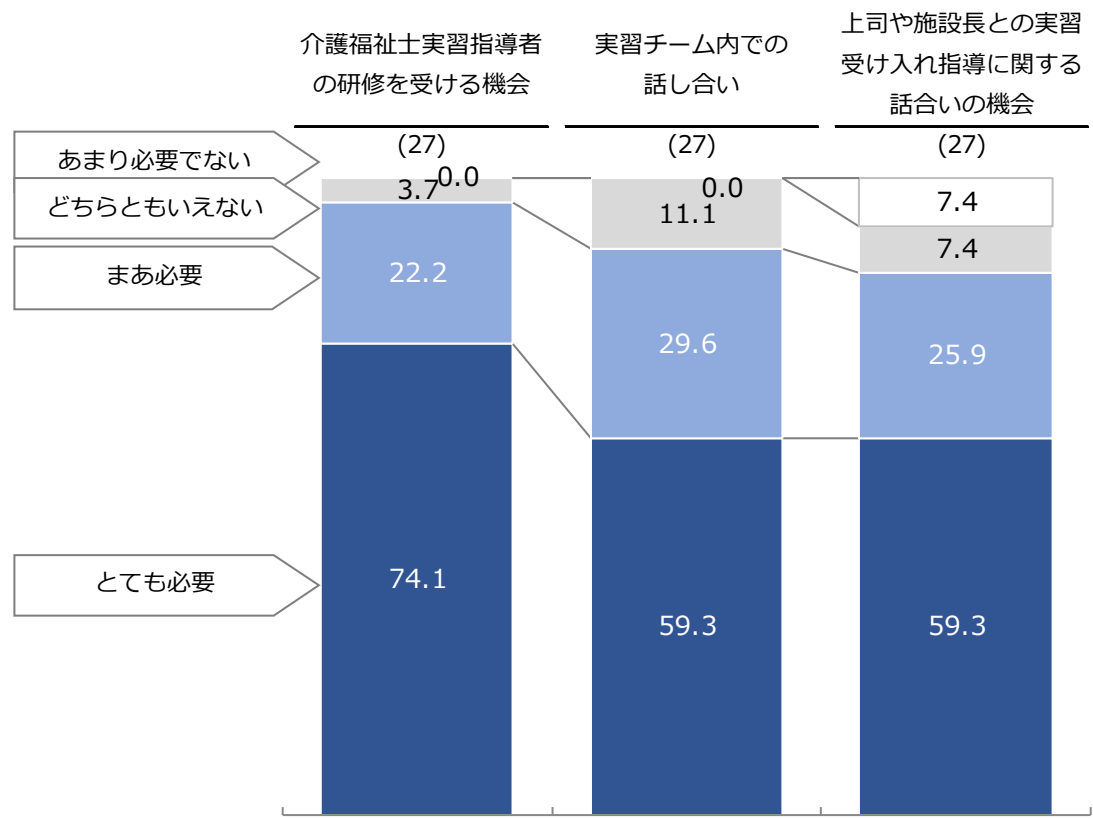


5-5 実習指導に必要な事項

- 実習指導者に必要なスキルアップに関して、研修を受ける機会は74.1%。実習チーム内の話し合い、上司などとの話し合いは「とても必要」がそれぞれ59.3%である。
- スキルアップに必要なものとしては、組織内の話し合いよりも実習指導者講習の受講機会のほうが高いと考えられる。

Q25 実習指導者として、実習指導に必要なスキルアップについて、次の点ではどの程度必要と思いますか。(それぞれ1つずつ選択)

全対象者ベース



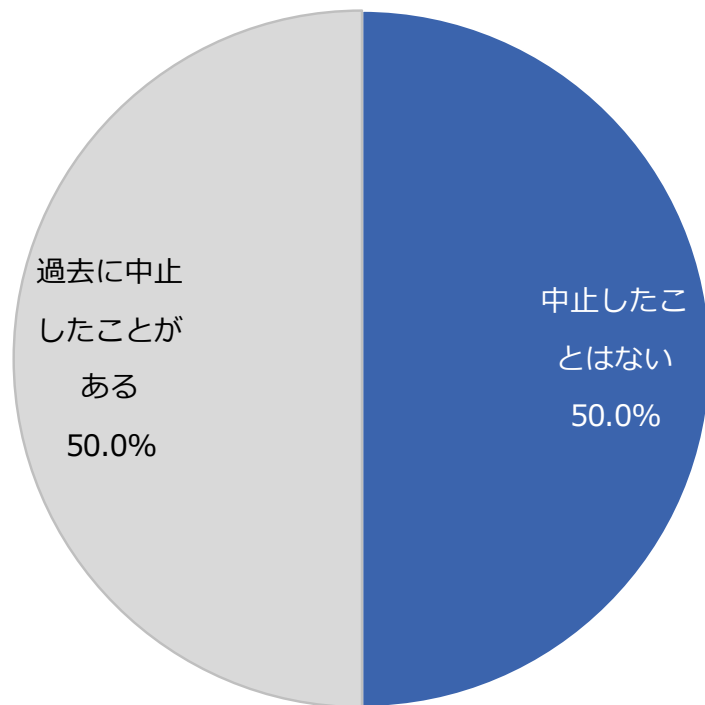
5-6 実習生受け入れ中止経験

- 実習生受け入れの中止経験は50.0%で、半数は中止した経験を持つ。

Q21 現在の施設・事業所ではこれまでに実習生の受け入れを中止したことはありますか。(1つ選択)

現在事業所での担当者ベース

(n=16)



6-1 今年度実習生に対する印象評価

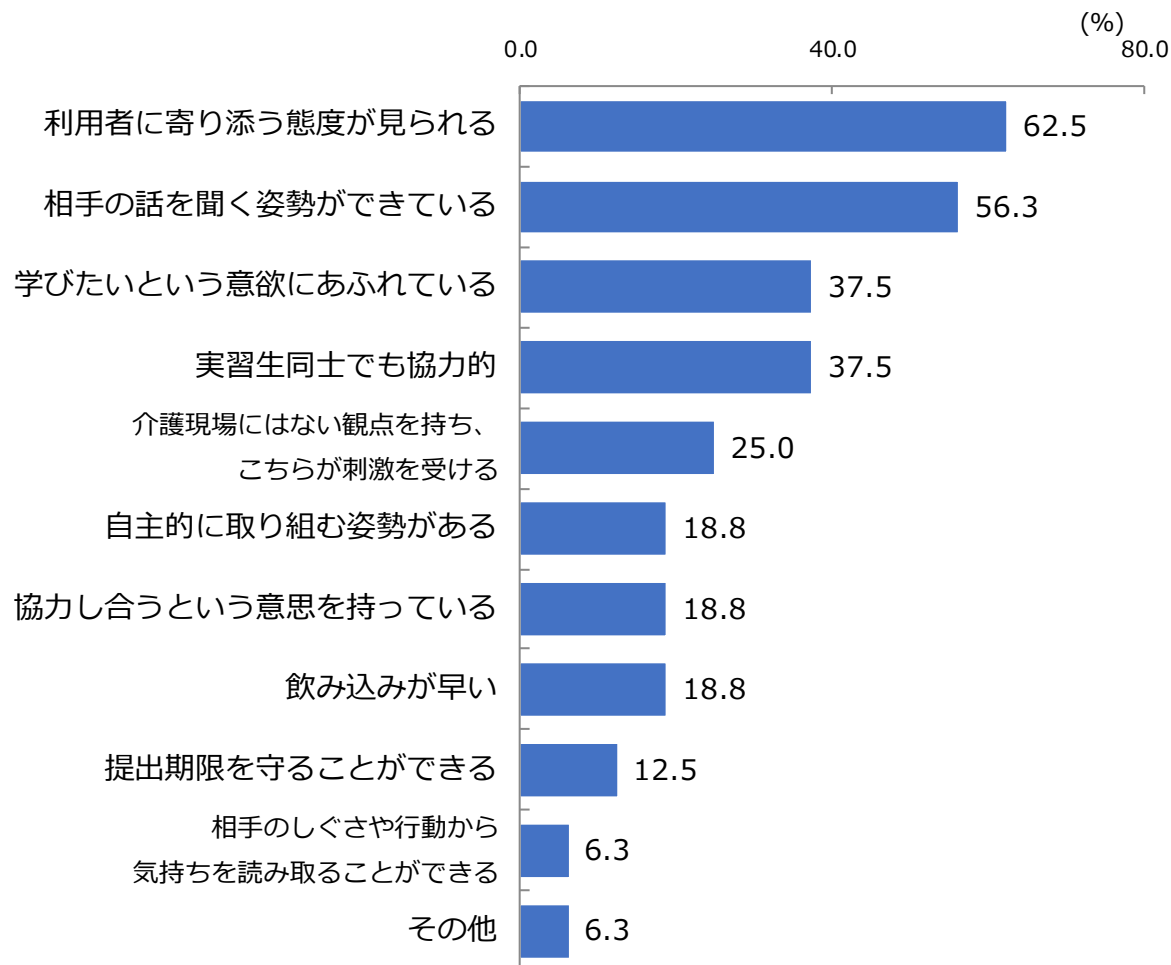
- 今年度の実習生に対する印象評価は、「利用者に寄り添う態度が見られる」62.5%と多く、「相手の話を聞く姿勢ができてい

る」が56.3%、「学びたいという意欲」や「実習生同士でも協力的」はそれぞれ37.5%ある。

Q22 今年度の介護福祉士の「実習生」に対して、どのような印象を持たれましたか。(複数選択可)

現在事業所での担当者ベース

「実習生」に対する印象 (n=16)



6-2 実習生受入れによる影響

- 実習生を受け入れることによって、「利用者にもよい影響がある」は81.3%と最も多い。次いで「実習生がいることで活気が出る」が68.8%。
- 「介護実習の指示があるまで待っていること」が50.0%あり、指示をしなくても進めて欲しいことの現れと思われるが、指示以外のことをやっていいという判断は本来は指導者に求められる。

Q23 これまでの実習生受け入れについて、良かったことや困ったことなどがありますか。項目にないものは、「その他」に詳しくご記入ください。(複数選択可)

現在事業所での担当者ベース

